木田市長のど～んとコミュニケーション

真珠のように輝くまちづくりのために

vol.62

姉妹都市サンタバーバラ市を訪ねて

何度訪ねてもサンタバーバラ市は美しくきれいなところです。

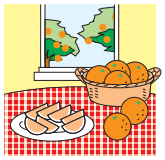
訪問団は、サンタバーバラ市のみなさんと交流を深めるとともに、来年、姉妹都市提携45周年を迎えることから、サンタバーバラ市長や市民に対して招待状を手渡すことができました。

新市長のハレン・シュナイダーさんは、「必ず、鳥羽市を訪問します」と力強く答えてくれました。サンタバーバラ市のなつかしい人々に大歓迎していただき、15名の小さな訪問団ではありましたが、内容の深い交流ができ、地方新聞にも第1面に大きく取り上げられました。

さて今回、私にとって忘れられないエピソードが生まれました。サンタバーバラ市近くの景勝地に立ち寄った時のことです。そこの岩の上に私がカメラを置き忘れたことに気づいたのは15㎞も先に進んだところでした。一瞬ドキリとするとともに、すぐにあきらめの気持ちになりました。経験から、アメリカでは物を置き忘れたらほとんど戻ってこないということを知っていたからです。しかし、とにかく戻ろうということになって、元鳥羽・サンタバーバラ交友会長のマックスウェル氏が車をとばしてくれました。その景勝地の駐車場に着き、その一角に車を止めた時、奇跡が起こりました。止めた車の目の前の岩の上に、そのカメラが置かれていたのです。ほかの場所に車を止めていたら、カメラに気付かなかったかもしれません。私にとっても恥になる話が、明るい話題に変わり、とても幸せな気分になりました。景勝地から降りる時に、すれ違ったあのカップルか、あの団体かと考えながら親切な人達に感謝の1日でした。やはり何ごともあきらめてはいけないということと、人を信じる大切さということを学びました。

来年、サンタバーバラ市からの訪問団が鳥羽へ来てくれた時には、心をつくしたおもてなしをしたいと思っています。

参加していただいた鳥羽市民のみなさんと、サンタバーバラ市民のかたがたに感謝したいと思います。初代鳥羽市長の中村さんの孫にあたる中村知好氏の熱のこもった英語でのあいさつもすばらしかったことを付け加えたいと思います。



人権文化の花を咲かせよう

Vol.101

不得意を克服すると得意も伸びる

今回も桜井章一さんの著書『負けない技術』のなかの一節です。

「自分の欠点や弱点に対してどう振る舞い、どう対応するか、これは生きていくうえでだれしもが抱える大きな課題である。／私は基本的には、『得意技を磨くより、不得意を克服したほうがいい』と思っている。不得意なことを克服したほうが、その相乗効果によって、自分の〝間口（まぐち）〟がどんどん広がっていくからだ。／たいがいの人は、得意なものより不得意なもののほうが多い。ということは、不得意のほうがやることがたくさんある。／得意というのは、流れでいえば〝よい流れ〟だ。よい流れは放っておいても乱れることなく整然と流れていく。でも、不得意のほうは〝悪い流れ〟なので、放っておくととんでもないことになったりする。／得意なことを伸ばしても不得意が改善することはないが、不思議なことにその逆、不得意を克服すると得意なことが伸びることがある。／不得意を克服しようとすると、そこに〝工夫〟も入ってくる。すると結果として、その工夫が得意なことをさらに伸ばしたりすることが実際によくある。／『得意だけ伸ばせばいい』という考えは、偏った人間を生み出すことにもつながっていく。本来人間は、得意・不得意両方を見ながら、バランスよく生きていくことが望ましい。」

確かに、「得意なことを伸ばしても不得意は改善することはできない」と私も感じていました。「得意・不得意両方を見ながら、バランスよく生きていく」という姿勢を持ち続けたいと思います。